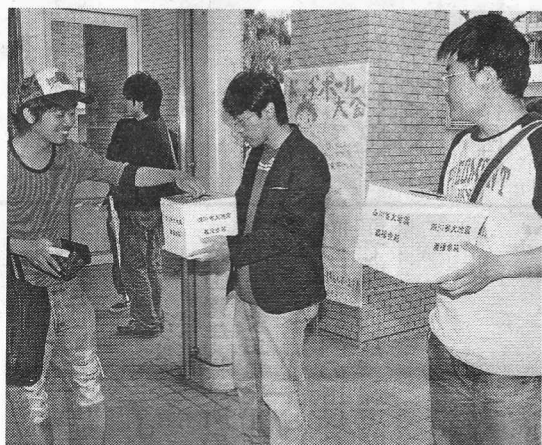


四川大地震の被災者支援の募金活動をする中国人留学生＝岡山大津島キャンパス

四川大地震

岡山発 支援広がる

中国・四川大地震から一週間が過ぎ、県内でも被災者支援が本格化している。十九日は岡山大など三大学で中国人留学生が募金活動を開始。国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市櫛津)は現地での救援活動に乗り出しており、「岡山発」の支援が広がりを見せている。(1面関連)



3大学で留学生ら募金開始 AMDA救急医療活動着手

募金は駐大阪総領事館を通じ、被害が集中していると言われる現地

「皆さんのご協力をお願いします」。十九日昼、岡山大津島キャンパス(岡山市津島中)で中国人留学生八人が口々に訴えると、通り掛かった学生や教員らが募金箱にお金を入れた。いった。

県内の中国人留学生でつくる「県中国留學生友好聯誼會」(二十五人)が一カ月の予定で企画。岡山商科大(同市津島京町)と吉備国際大(高梁市伊賀町)でも同時に始まり、この日は計約二十六万八千円が集まった。

依然として生き埋めとなっている人や街頭生活を送る被災者が多

同日、学内七カ所に募金箱を設置。震災発生直後から会員らに浄財を募っている岡山市日中友好協会(片岡和男会長)は二十四日、教育や経済などの分野で日中交流に取り組む五団体とともに、同市中心部で街頭募金活動を展開する。

「皆さんのご協力をお願いします」。十九日昼、岡山大津島キャンパス(岡山市津島中)で中国人留学生八人が口々に訴えると、通り掛かった学生や教員らが募金箱にお金を入れた。いった。

の小中学校の再建資金などに充てられる。同会の王雪松会長(吉備国際大大学院生)は「山陽学園大(岡山市平井)などでも活動を計画し

大変感謝している。被災地の一日も早い復興を祈り、長期的な取り組みを続けたい」と話している。(平田知也、河内慎太郎)

数いる中、AMDAは本部調整員が十七日に四川省成都入り。同省什邡市ではAMDAと協力関係にある医師ら現地スタッフ四人が救急医療活動に当たっている。

在岡中国人のネットワーク組織「県華僑・華人總會」は今後、チャリティーイベントの

開催などを通じて祖国の支援に弾みをつけた考え。同会の劉勝徳会長は「日本人の方からもカンパなどの協力の申し出をいただき、